

宮城県商工区地 中小企業景況調査報告書

2020年7月～9月期

目 次

1. 県下産業全体の景況	2
(1) 主要景況項目のあらまし	2
(2) 全国・東北ブロックおよび本県景況のあらまし	3
(3) 今後の見通しについて	4
2. 県下産業別の景況	5
(1) 製造業の動向	5
(2) 建設業の動向	8
(3) 小売業の動向	11
(4) サービス業の動向	14

2020年10月

宮城県商工会連合会

中小企業景況調査報告書

2020年7月～9月

[調査要領]

1. 調査対象

- (1) 対象地区 宮城県内10商工会地区
(調査対象商工会名) 名取市商工会、大河原町商工会、みやぎ仙台商工会、
利府松島商工会、くろかわ商工会、加美商工会、
遠田商工会、若柳金成商工会、みやぎ北上商工会、
石巻かほく商工会
- (2) 対象企業数 150企業
- (3) 回答企業数 150企業

2. 調査対象期間

2020年7月～9月期を対象として、調査時点は2020年9月1日とした。

3. 調査方法

- (1) 商工会の経営指導員による訪問面接調査。
- (2) 対象企業の抽出は、商工会に於いて、業種・規模等有意選定。

4. 回答企業内訳

業 種	企 業 数
製 造 業	3 2
建 設 業	2 6
小 売 業	4 6
サービス業	4 6
合 計	1 5 0

5. そ の 他

本報告書中のD Iとは、ディフュージョン・インデックス(景気動向指数)の略で、各調査項目についての増加(上昇・好転)企業割合と減少(低下・悪化)企業割合の差を示すものである。

1. 県下産業全体の景況

(1) 主要景況項目のあらまし

① 業況D I の状況と来期見通し

県下商工会地区における今期(2020年7月～9月期)の調査において、産業全体(全産業)の業況D I(前年同期との比較D I、以下同じ)は、前期より14.9ポイントの改善で△51.1(前期△66.0)となった。産業別にみると、製造業が△62.5(前期△78.1)と15.6ポイント改善、建設業では△50.0(前期△30.8)と△19.2ポイント悪化、小売業では△53.5(前期△74.9)と21.4ポイント改善、サービス業でも△41.3(前期△68.9)と27.6ポイントの改善となった。

来期見通しについては、産業全体(全産業)としては改善の見通しである。産業別では、製造業、サービス業で改善、建設業、小売業で悪化の見通しである。

表一1 業況D I の状況と来期見通し (前年同期比・D I)

業種	前期	今期	来期見通し
全産業	△ 66.0	△ 51.1	△ 49.6
製造業	△ 78.1	△ 62.5	△ 59.4
建設業	△ 30.8	△ 50.0	△ 53.8
小売業	△ 74.9	△ 53.5	△ 55.7
サービス業	△ 68.9	△ 41.3	△ 34.8

② 設備投資の状況と来期計画

新規投資の実施比率は、製造業では12.5%で前期比△6.2ポイント減少、建設業でも11.5%で前期比△3.9ポイント減少、小売業では8.7%で前期比1.9ポイント増加、サービス業でも13.0%と前期比2.1ポイントの増加であった。

来期に設備投資を計画している企業は、今期に比べ製造業、サービス業で増加、建設業、小売業で減少となっている。

表一2 設備投資の状況と来期計画 (企業割合・%)

業種	前期	今期	来期計画
製造業	18.7	12.5	15.6
建設業	15.4	11.5	7.7
小売業	6.8	8.7	4.3
サービス業	10.9	13.0	23.9

(2) 全国・東北ブロックおよび本県景況のあらまし

① 売上額（完成工事額）

2020年9月調査の日銀短観で、「中小企業の業況判断指数（D I）は前期(2020年6月調査)と比較して、製造業が1ポイント改善のマイナス44、非製造業も4ポイント改善のマイナス22だった。先行きは製造業で今期に比べ改善、非製造業では今期に比べ悪化を見込んでいる」と発表された。

宮城の今期売上額（完成工事額）D Iは、全業種でマイナス値であった。前期との比較では全業種で改善となった。

今期の宮城の全国・東北との売上額D I比較では、製造業・小売業・サービス業で全国・東北以上、建設業では全国・東北以下であった。

表－3 売上額（完成工事額）の状況（前年同期比・D I）

区分 業種	全 国		東 北		宮 城	
	前 期	今 期	前 期	今 期	前 期	今 期
製 造 業	△ 71.1	△ 64.9	△ 81.0	△ 69.0	△ 71.8	△ 59.3
建 設 業	△ 35.8	△ 33.6	△ 39.8	△ 33.3	△ 50.1	△ 42.4
小 売 業	△ 71.2	△ 61.2	△ 74.6	△ 64.0	△ 81.9	△ 58.8
サービス業	△ 79.9	△ 67.8	△ 81.8	△ 66.6	△ 84.7	△ 45.6

② 採 算

宮城の今期の採算D Iも、全業種でマイナス値であった。前期との比較では、製造業・建築業で悪化、小売業・サービス業では改善となった。

今期の宮城の全国・東北との採算D I比較では、製造業・建設業で全国・東北以下、小売業で全国以下、東北以上、サービス業では全国・東北以上であった。

表－4 採算の状況（前年同期比・D I）

区分 業種	全 国		東 北		宮 城	
	前 期	今 期	前 期	今 期	前 期	今 期
製 造 業	△ 63.6	△ 58.5	△ 68.5	△ 63.0	△ 56.2	△ 65.7
建 設 業	△ 33.1	△ 29.0	△ 39.2	△ 33.4	△ 34.7	△ 46.2
小 売 業	△ 62.7	△ 51.6	△ 67.6	△ 54.5	△ 77.3	△ 53.3
サービス業	△ 72.0	△ 59.0	△ 73.5	△ 57.2	△ 75.6	△ 45.7

(3) 今後の見通しについて

① 県下産業全般の主要項目来期見通し

宮城の売上額（完成工事額）来期見通しD I（2020年10月～12月期）では、今期状況D Iとの比較で、製造業で3.2ポイントの改善、建設業で△23.0ポイントの悪化、小売業で4.4ポイントの改善、サービス業では△8.7ポイントの悪化の見通しとなった。

採算来期見通しD Iでは、今期状況D Iとの比較で、製造業で若干の改善、建設業で横ばい、小売業で△6.7ポイントの悪化、サービス業では2.2ポイントの改善見通しとなった。

② 全国と本県企業の来期見通し比較

今期と来期見通しとの比較において、製造業で売上は全国で改善、宮城でも改善、採算では全国で改善、宮城で若干の改善の見通しとなった。建設業では売上は全国で悪化、宮城でも悪化、採算では全国で悪化、宮城では横ばいの見通しとなった。小売業では売上は全国で若干の改善、宮城で改善、採算は全国で改善、宮城では悪化の見通しとなった。サービス業では、売上は全国で改善、宮城で悪化、採算では全国・宮城共に改善の見通しとなった。

表－5 売上額（完成工事額）の状況と見通し（前年同期比・D I）

区分 業種	全 国		宮 城	
	今期状況	来期見通し	今期状況	来期見通し
製造業	△ 64.9	△ 63.5	△ 59.3	△ 56.1
建設業	△ 33.6	△ 38.1	△ 42.4	△ 65.4
小売業	△ 61.2	△ 60.3	△ 58.8	△ 54.4
サービス業	△ 67.8	△ 60.9	△ 45.6	△ 54.3

表－6 採算の状況と見通し（前年同期比・D I）

区分 業種	全 国		宮 城	
	今期状況	来期見通し	今期状況	来期見通し
製造業	△ 58.5	△ 55.7	△ 65.7	△ 65.6
建設業	△ 29.0	△ 32.8	△ 46.2	△ 46.2
小売業	△ 51.6	△ 49.6	△ 53.3	△ 60.0
サービス業	△ 59.0	△ 54.3	△ 45.7	△ 43.5

2. 県下産業別の景況

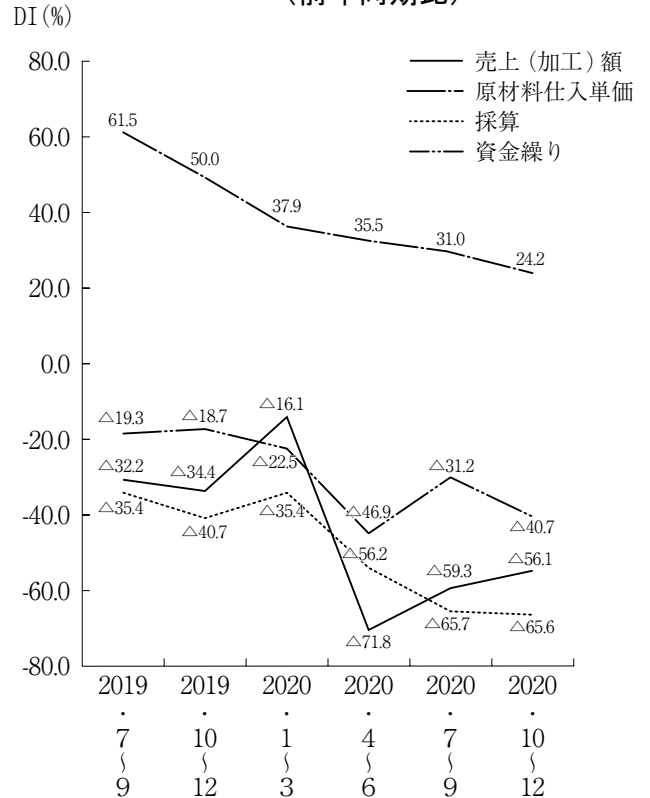
(1) 製造業の動向

① 主要景況項目から見たあらまし

前年同期比D Iは、売上（加工）額D Iが今期△59.3（前期△71.8）となり12.5ポイント前期より改善、採算D Iは今期△65.7（前期△56.2）で△9.5ポイント悪化、資金繰りD Iでは今期△31.2（前期△46.9）で15.7ポイントの改善となった。

原材料仕入単価は今期31.0（前期35.5）と△4.5ポイント下落した。

図1-1 主要景況項目の推移
(前年同期比)



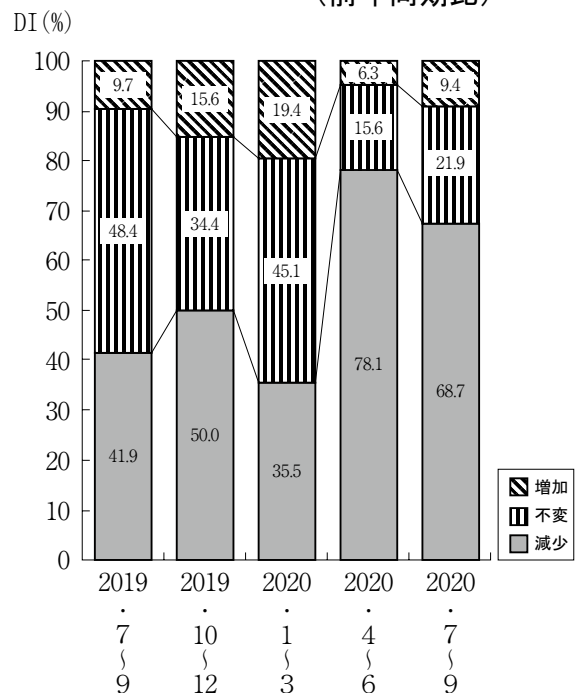
② 主要景況項目別状況

(a) 売上(加工)額

「増加」と回答した企業は、全体の9.4%（前期6.3%）と3.1ポイント増加、「減少」と回答した企業は68.7%（前期78.1%）と△9.4ポイント減少した。

その結果、売上（加工）額D Iは△59.3（前期△71.8）となり前期比12.5ポイント改善した。

図1-2 売上（加工）額の状況
(前年同期比)

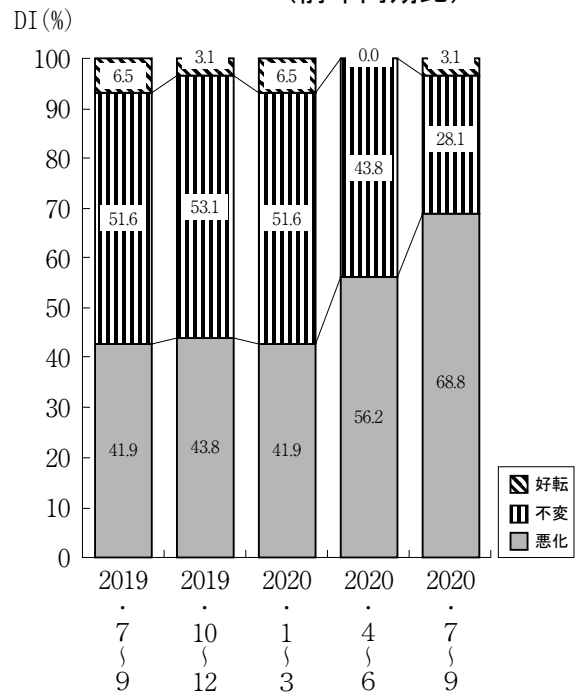


(b) 採 算

「好転」と回答した企業は全体の 3.1% (前期 0.0%) で 3.1 ポイント増加、「悪化」と回答した企業も 68.8% (前期 56.2%) で 12.6 ポイント増加した。

その結果、採算DIは△65.7 (前期△56.2) で前期より△ 9.5 ポイント悪化した。

図 1-3 採算の状況
(前年同期比)



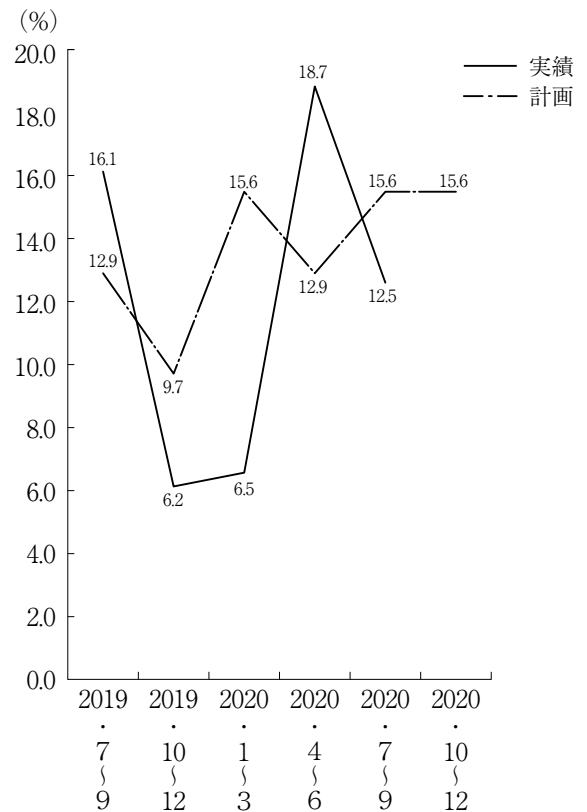
(c) 設 備 投 資

今期の新規投資実施(実績)企業割合は全体の 12.5% (前期 18.7%) で、前期と比べ △ 6.2 ポイント減少した。

その設備内容は、工場建物、生産設備、車両・運搬具であった。

来期に設備投資を計画している企業は全体の 15.6% で、その設備内容は、工場建物、生産設備、OA機器となっている。

図 1-4 設備投資の状況

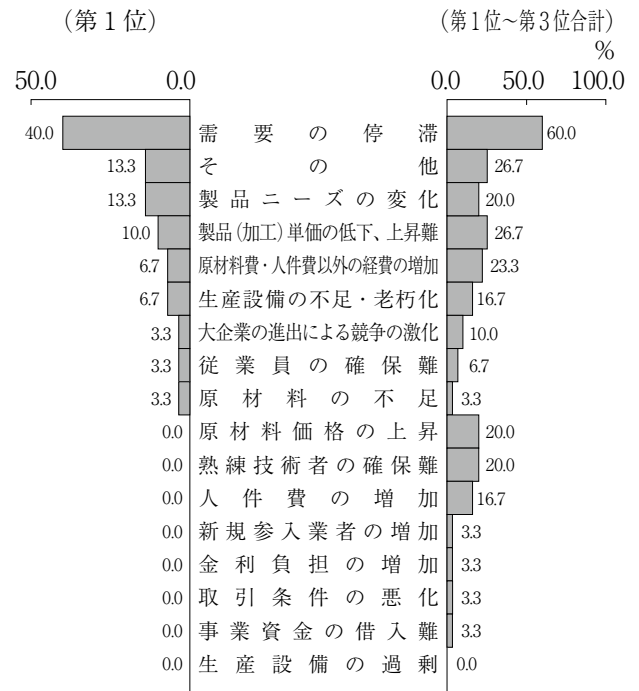


(d) 経営上の問題点

重要度第1位の問題点は「需要の停滞」で40.0%、次いで「その他」と「製品ニーズの変化」が同率13.3%で続いた。

重要度第1位から第3位合計でも「需要の停滞」が60.0%(複数回答計、以下同じ)で最上位、次いで「その他」と「製品(加工)単価の低下、上昇難」が同率26.7%で続いた。

図1-5 経営上の問題点



③ 全国・東北ブロックと本県の景況比較

今期と前期の比較では売上(加工)額DIでは全地域(全区分)で改善した。

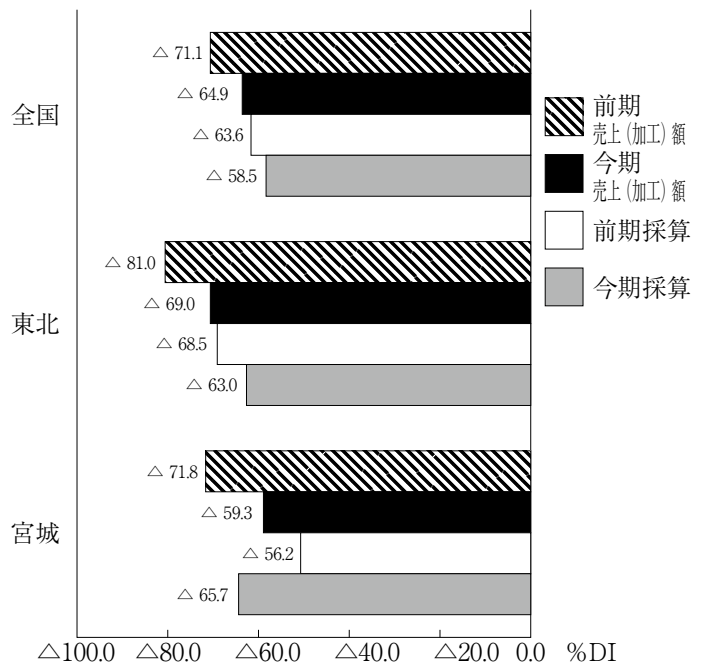
その改善度は、宮城、東北、全国の順であった。

採算DIの比較では全国、東北で改善、宮城で悪化した。

その改善度は、東北、全国の順であった。

本県回答事業者からは「コロナの影響で取引先の臨時休業が増加、それに伴い受発注が減少」(部品検査組立業)や、「受注残が確保されているため今期はコロナの影響が少ないが、引き合いが減少傾向で来期以降は不安要素が大」(木工造作業)などのコメントがあった。

図1-6 全国東北宮城売上(加工)額・採算比較(前年同期比)

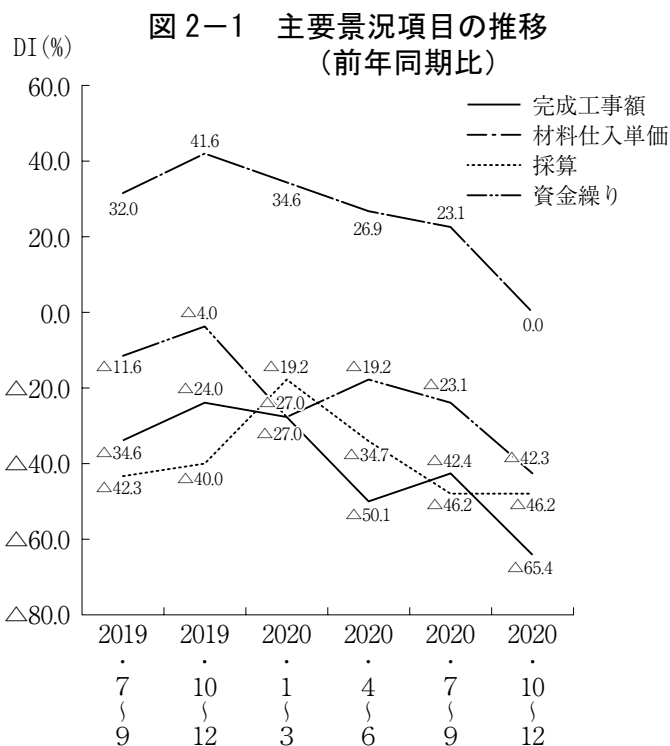


(2) 建設業の動向

① 主要景況項目から見たあらまし

完成工事（請負工事）額D Iは今期△42.4（前期△50.1）と7.7ポイント改善、採算D Iは今期△46.2（前期△34.7）で△11.5ポイント悪化、資金繰りD Iでは今期△23.1（前期△19.2）と△3.9ポイント悪化した。

材料仕入単価D Iは今期23.1（前期26.9）と前期より△3.8ポイント下落した。



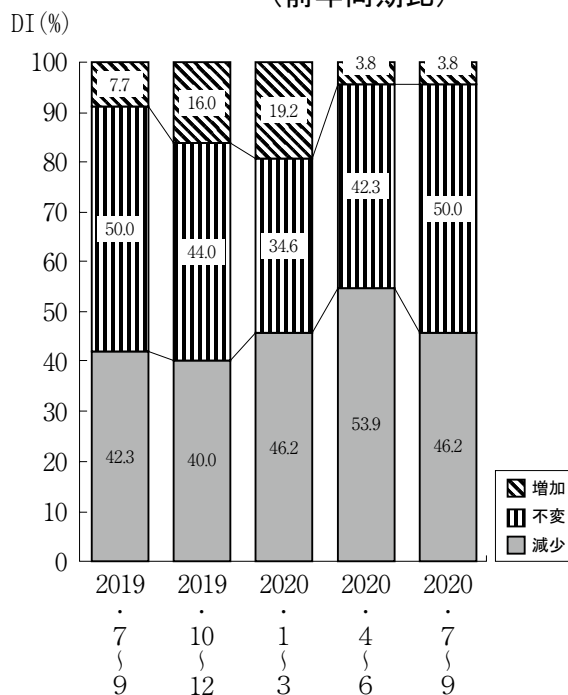
② 主要景況項目別状況

(a) 完成工事（請負工事）額

「増加」と回答した企業は全体の3.8%（前期3.8%）で横ばい、「減少」と回答した企業は46.2%（前期53.9%）で△7.7ポイント減少した。

その結果、完成工事（請負工事）額D Iは△42.4（前期△50.1）と7.7ポイント改善した。

図2-2 完成工事額の状況
(前年同期比)

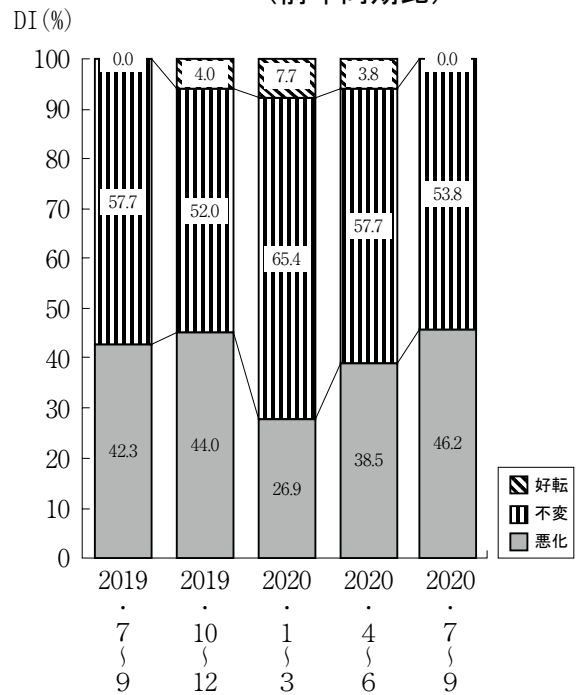


(b) 採 算

「好転」と回答した企業は全体の 0.0% (前期 3.8%) で△3.8 ポイント減少、「悪化」と回答した企業は全体の 46.2% (前期 38.5%) で 7.7 ポイント増加した。

その結果、採算D I は△46.2 (前期△34.7) と前期より△11.5 ポイント悪化した。

図 2-3 採算の状況 (前年同期比)



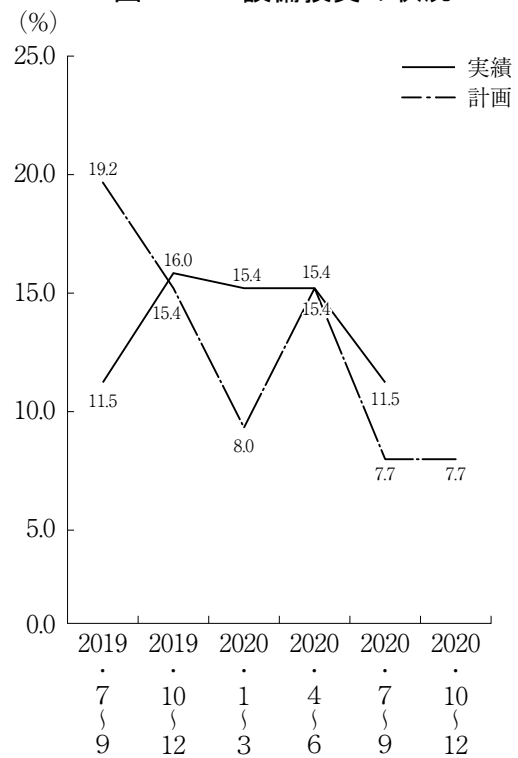
(c) 設 備 投 資

今期の新規投資実施 (実績) 企業割合は全体の 11.5% (前期 15.4%) で、前期比△3.9 ポイント減少した。

その設備内容は、建設機械、車両・運搬具、OA機器であった。

来期に設備投資を計画している企業は全体の 7.7% で、その設備内容は、車両・運搬具、付帯施設となっている。

図 2-4 設備投資の状況

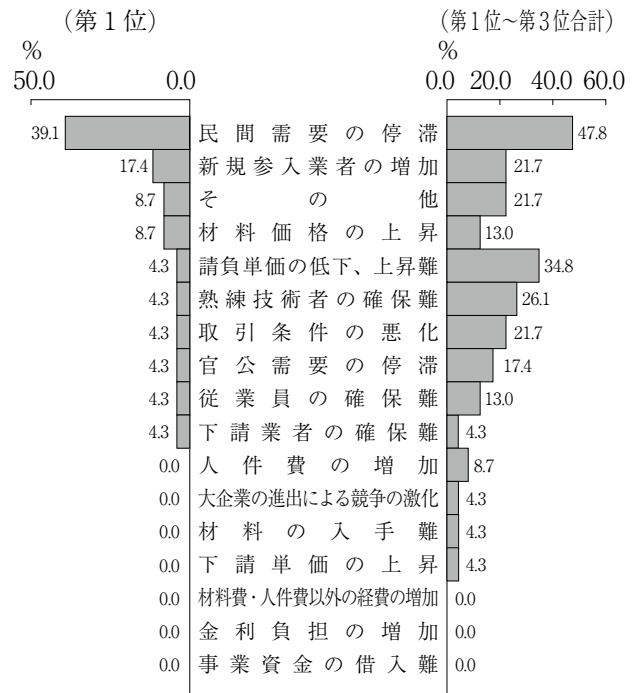


(d) 経営上の問題点

重要度第1位の問題点は「民間需要の停滞」が39.1%で、次いで「新規参入業者の増加」が17.4%、「その他」と「材料価格の上昇」が同率8.7%で続いた。

重要度第1位から第3位合計でも、「民間需要の停滞」が47.8%（複数回答計、以下同じ）で最上位、次いで「請負単価の低下、上昇難」が34.8%、「熟練技術者の確保難」が26.1%で続いた。

図2-5 経営上の問題点



③ 全国・東北ブロックと本県の景況比較

今期と前期との比較では、完成工事額D I は全地域（全区分）で改善した。

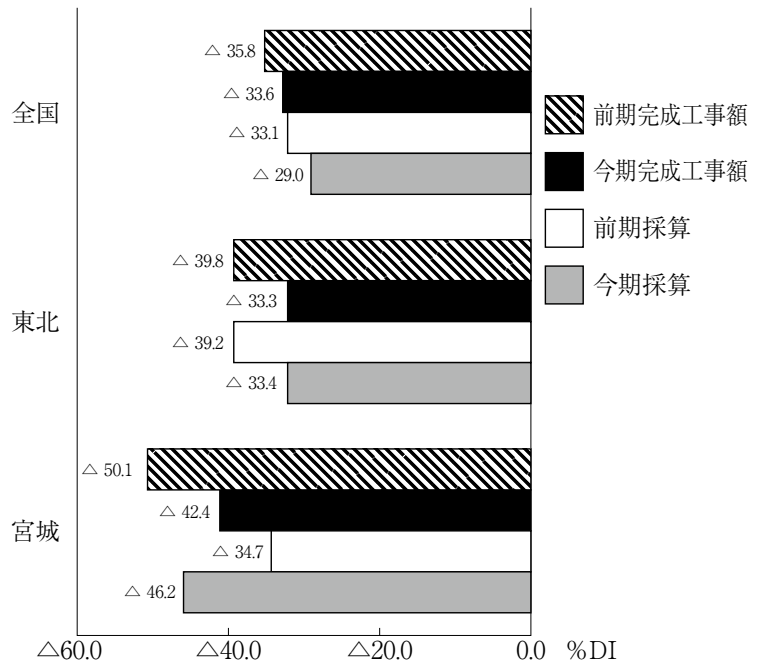
その改善度は宮城、東北、全国の順であった。

採算D I の比較では、全国、東北で改善、宮城で悪化した。

その改善度は東北、全国の順であった。

本県回答事業所からは「コロナウィルスの影響で、徐々に建材の入荷が遅くなりつつある」や「社会の変化に加えてコロナ禍の影響も重なり石材需要が低下」などのコメントが寄せられた。

図2-6 全国東北宮城完成工事額・採算比較（前年同期比）



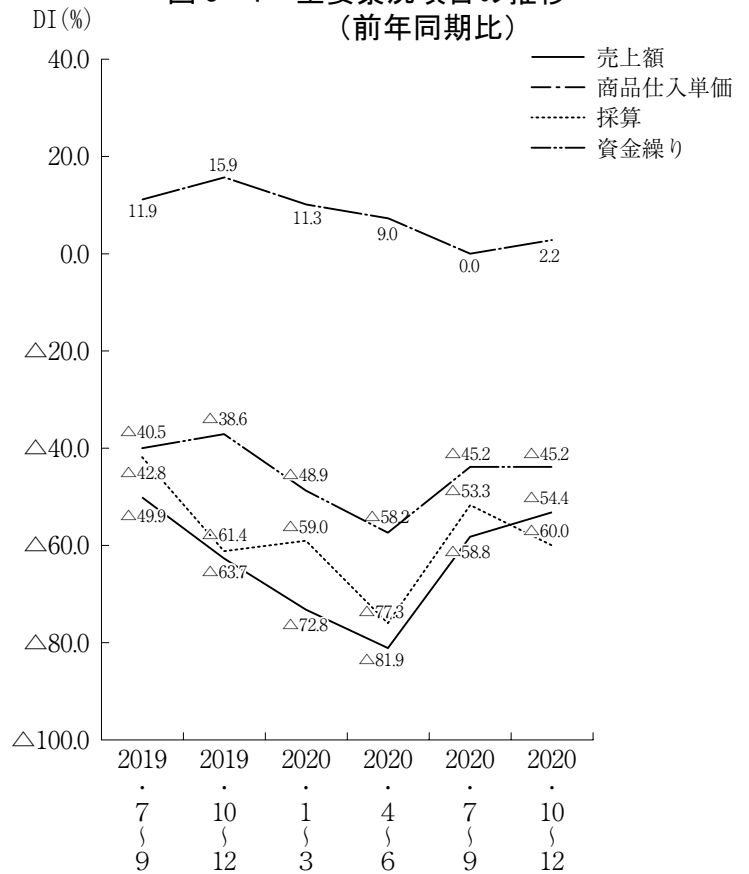
(3) 小売業の動向

① 主要景況項目から見たあらまし

売上額D Iは今期△58.8(前期△81.9)と前期より23.1ポイント改善、採算D Iは今期△53.3(前期△77.3)で24.0ポイント改善、資金繰りD Iでも今期△45.2(前期△58.2)で13.0ポイント改善した。

商品仕入単価D Iは今期0.0(前期9.0)となり、△9.0ポイント下落した。

図3-1 主要景況項目の推移
(前年同期比)



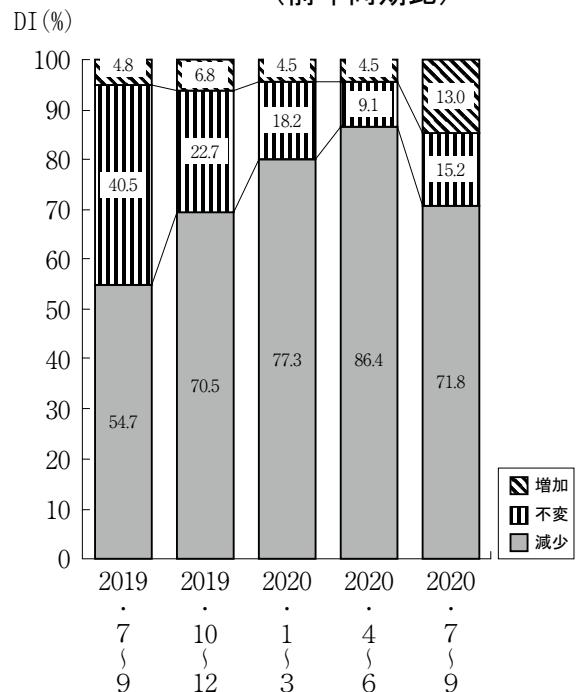
② 主要景況項目別状況

(a) 売上額

「増加」と回答した企業は、今期は全体の13.0% (前期4.5%) で8.5ポイント増加、「減少」の回答は、今期は全体の71.8% (前期86.4%) で△14.6ポイント減少した。

その結果、売上額D Iは今期△58.8(前期△81.9)と前期より23.1ポイント改善した。

図3-2 売上額の状況
(前年同期比)

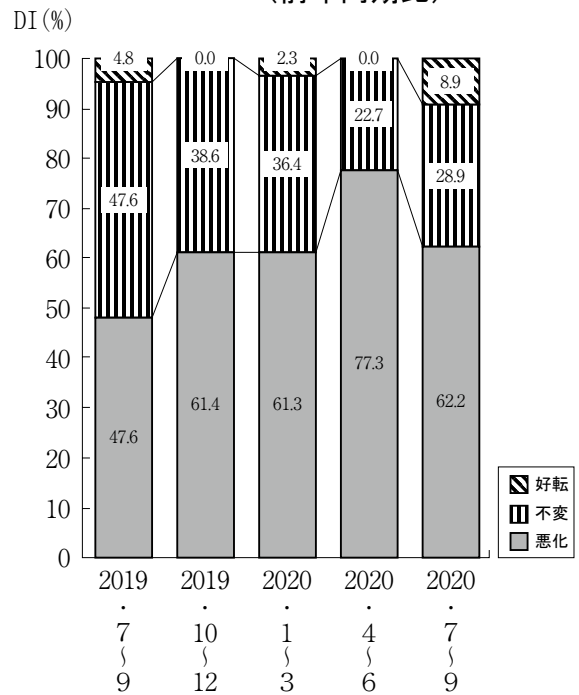


(b) 採 算

「好転」と回答した企業は、今期は全体の8.9%（前期 0.0%）と 8.9%増加、「悪化」の回答は、今期は全体の 62.2%（前期 77.3%）で△15.1ポイント減少した。

その結果、採算D Iは今期△53.3（前期△77.3）で、前期より 24.0ポイント改善した。

**図 3-3 採算の状況
（前年同期比）**



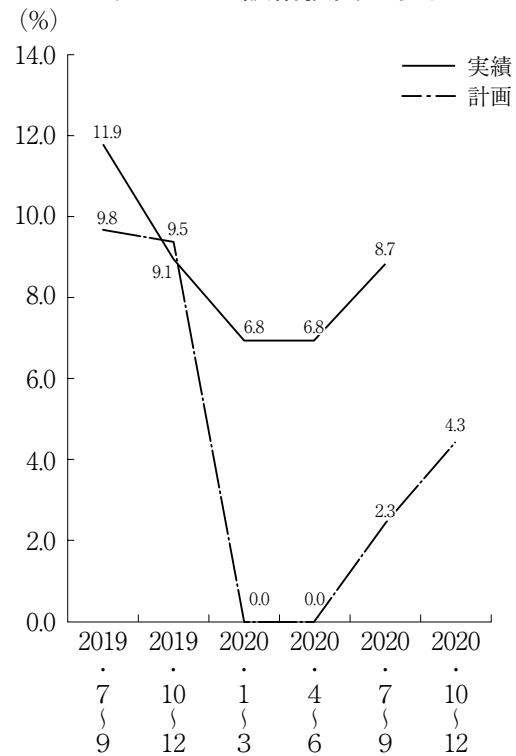
(c) 設 備 投 資

今期の新規投資実施（実績）企業割合は、今期は全体の8.7%（前期6.8%）で、前期比1.9ポイント増加した。

その設備内容は、車両・運搬具、付帯施設、OA機器、その他であった。

来期に設備投資を計画している企業は全体の4.3%で、その設備内容は、土地、販売設備となっている。

図 3-4 設備投資の状況

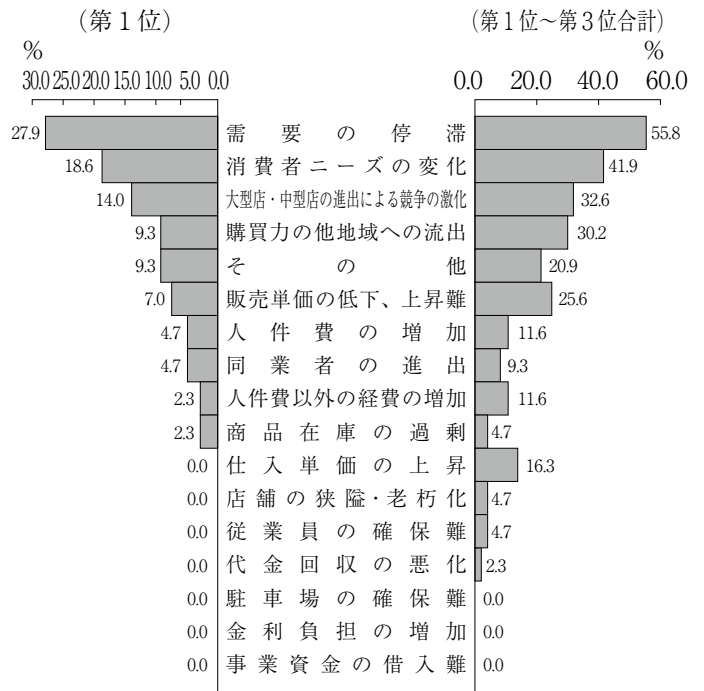


(d) 経営上の問題点

重要度第1位は「需要の停滞」が27.9%で、次いで「消費者ニーズの変化」が18.6%、「大型店・中型店の進出による競争の激化」が14.0%で続いた。

重要度第1位から第3位合計でも、「需要の停滞」が55.8%（複数回答合計、以下同じ）で最上位、次いで「消費者ニーズの変化」が41.9%、「大型店・中型店の進出による競争の激化」が32.6%で続いた。

図3-5 経営上の問題点



③ 全国・東北ブロックと本県の景況比較

今期と前期の比較では、売上DIは全地域（全区分）で改善した。

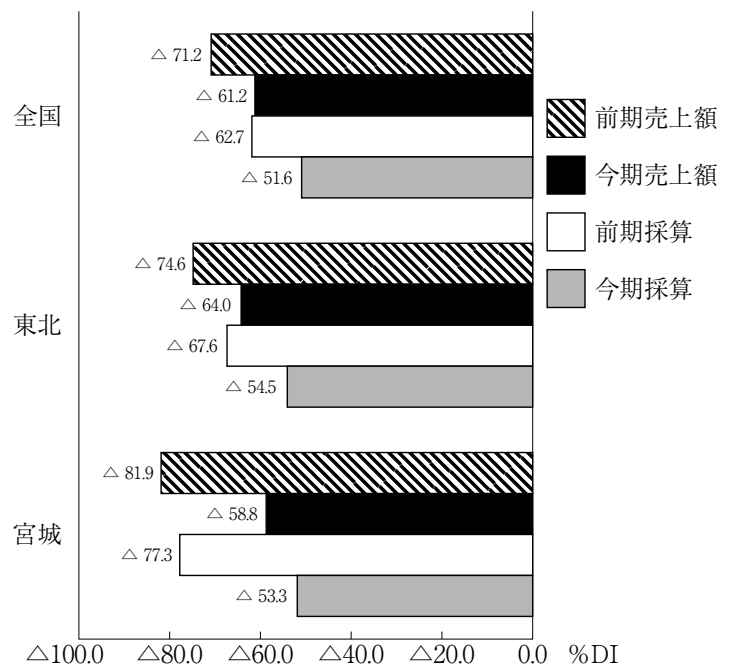
その改善度は宮城、東北、全国の順であった。

採算DIでも全地域（全区分）で改善した。

その改善度も宮城、東北、全国の順であった。

本県回答事業所から「徐々に来店者数が戻りつつあるが、感染防止対策の経費が増加」（海産物販売）や「コロナの影響で訪問販売ができず自粛状態」（家電販売店）などのコメントが寄せられた。

図3-6 全国東北宮城売上額・採算比較（前年同期比）



(4) サービス業の動向

① 主要景況項目から見たあらまし

売上（収入）額DIは今期△45.6（前期△84.7）で39.1ポイント改善、採算DIは今期△45.7（前期△75.6）で29.9ポイント改善、資金繰りDIでも今期△34.1（前期△57.8）で23.7ポイント改善した。

利用客数DIは今期△45.7（前期△84.7）で39.0ポイント増加した。

② 主要景況項目別状況

(a) 売上（収入）額

「増加」と回答した企業は、今期は全体の17.4%（前期2.2%）で前期より15.2ポイント増加、「減少」の回答は今期63.0%（前期86.9%）で△23.9ポイント減少した。

その結果、売上（収入）額DIは今期△45.6（前期△84.7）で前期より39.1ポイント改善した。

図4-1 主要景況項目の推移
(前年同期比)

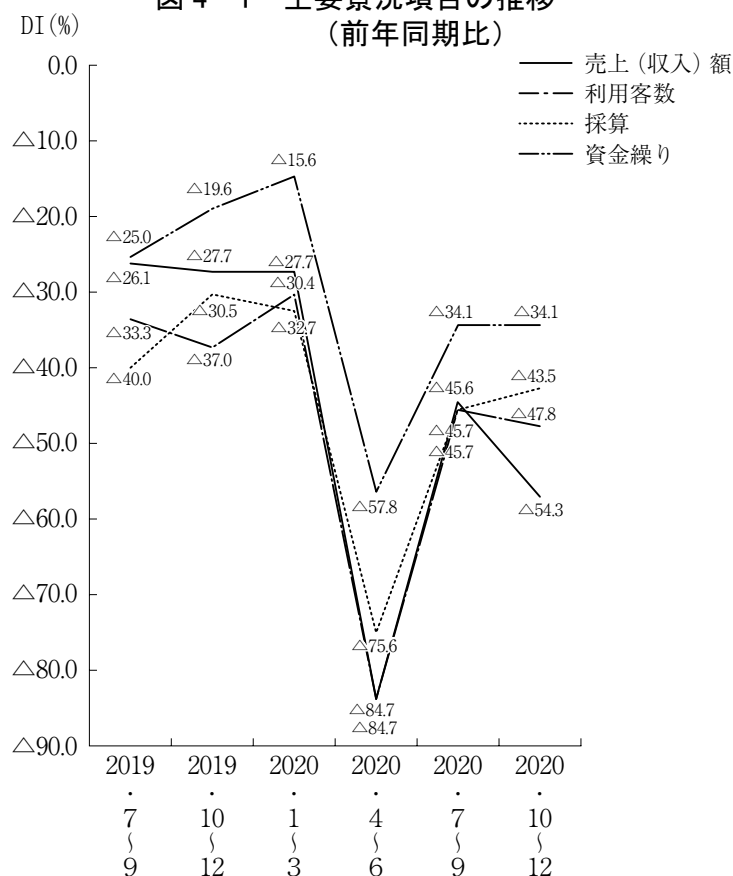
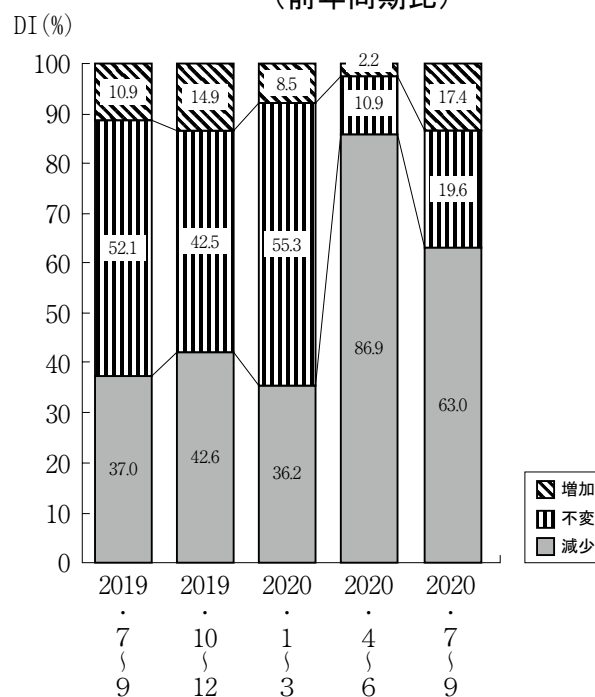


図4-2 売上（収入）額の状況
(前年同期比)

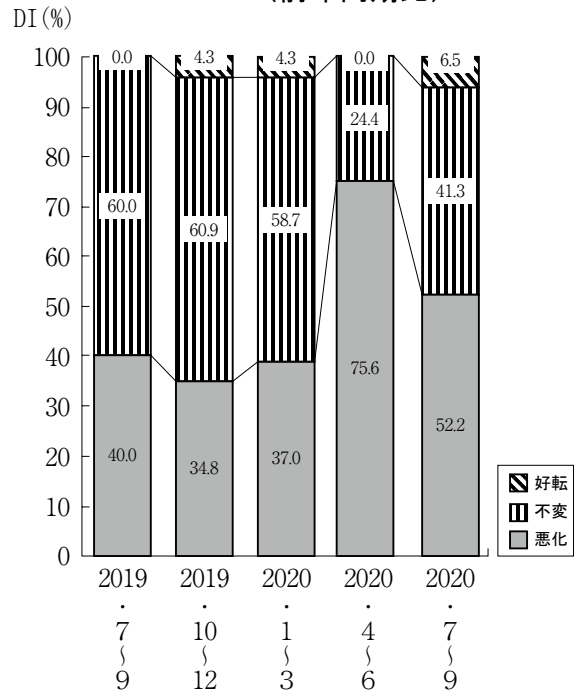


(b) 採 算

「好転」と回答した企業は、今期は全体の6.5%（前期0.0%）で6.5ポイント増加、「悪化」と回答した企業は今期52.2%（前期75.6%）と△23.4ポイント減少した。

その結果、採算DIは今期△45.7（前期△75.6）で前期より29.9ポイント改善した。

**図 4-3 採算の状況
（前年同期比）**



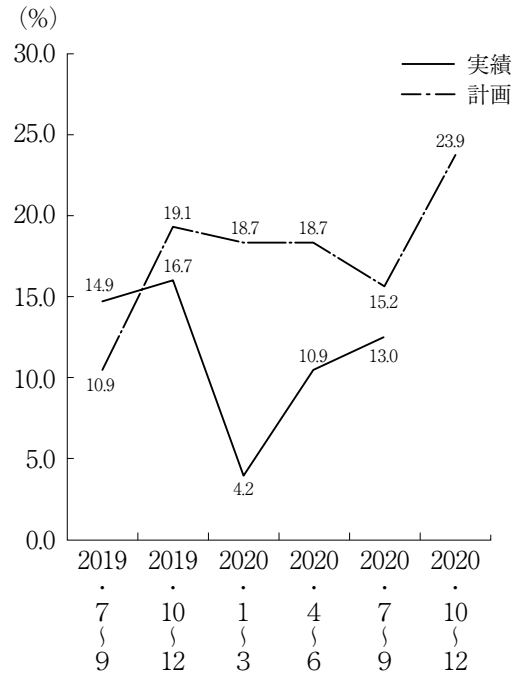
(c) 設 備 投 資

今期新規投資を実施（実績）した企業は全体の13.0%（前期10.9%）で、前期より2.1ポイント増加した。

その設備内容は、建物、サービス、車両・運搬具、福利厚生施設であった。

来期に設備計画している企業割合は全体の23.9%で、その設備内容は、土地、建物、サービス、車両・運搬具、付帯施設、福利厚生施設、その他となっている。

図 4-4 設備投資の状況

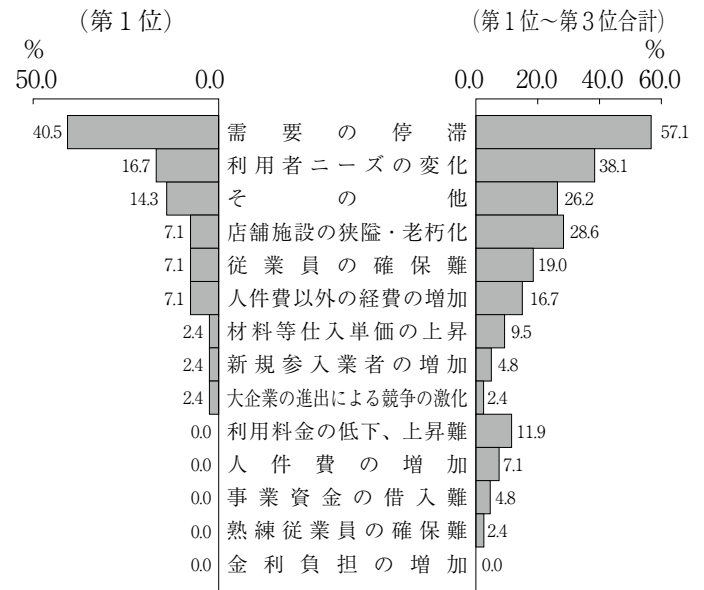


(d) 経営上の問題点

重要度第1位は「需要の停滞」が40.5%で、次いで「利用者ニーズの変化」が16.7%、「その他」が14.3%で続いた。

重要度第1位から第3位合計でも「需要の停滞」が57.1%（複数回答合計、以下同じ）で最上位、次いで「利用者ニーズの変化」が38.1%、「店舗施設の狭隘・老朽化」が28.6%で続いた。

図4-5 経営上の問題点



③ 全国・東北ブロックと本県の景況比較

前期と今期の比較において、売上(収入)DIは全地域(全区分)で改善した。

その改善度は宮城、東北、全国の順であった。

採算DIでも、全地域(全区分)で改善した。

その改善度も宮城、東北、全国の順であった。

本県回答事業所からは「高齢のお客様が多いため、(3密を避けるため)予約数を減らして営業(美容業)や「前期に比べて売り上げがやや改善したが、新型コロナの影響で宴会関係が依然として少ない」(飲食業)などのコメントが寄せられた。

図4-6 全国東北宮城売上(収入)額・採算比較(前年同期比)

